

二宮町町民活動推進委員会 第5回委員会議事録

日 時：平成 22 年 9 月 1 日（水） 19：00～20：15

場 所：二宮町役場 2 階 第 1 会議室

出席者：山内委員長、高橋副委員長、工藤委員、武井委員、手塚委員、西尾委員、西方委員、山口委員、小林委員

欠席者：荻野委員、澁澤委員

事務局：安藤課長、西山副主幹、後藤主事

傍聴者：なし

配布資料（当日配布）

- ・会議次第
- ・資料 1・・・平成 22 年度協働まちづくり補助金制度の改善点及び次年度の方向性について
- ・資料 2・・・平成 22 年度協働まちづくり補助金交付団体活動現場確認について
- ・資料 3・・・にのみや町民活動サポートセンターの運営について
- ・参考資料・・・平成 22 年度補助金交付団体のホームページ掲載記事について

1 開会（安藤課長より）

2 委員長あいさつ（山内委員長より）

本当に暑い日が続きますがよろしく願いいたします。

○本日の議事録署名人は山内委員長と西尾委員になります。

3 議題

（1）平成 22 年度協働まちづくり補助金制度の改善点及び次年度の方向性について（資料 1）

◆資料 1 に基づき各委員から出された改善点等について事務局より説明

（申請団体数が減ってきていることに対する広報等の充実を求めるものが主な意見）

（委員長）意見をいただいた委員の中で補則説明があればお願いします。

（委 員）相談会は書類作成の相談をするものと解釈しているが、説明会の前に気楽に聞けるような説明会の前の相談会があったらいいと思います。

（委 員）参加団体を増やすには、町の広報メディアだけでなく一般のタウン誌などにも掲載するのも良いと思います。

（委員長）何事も制度開始当初は集まるが、だんだん数が少なくなって来る事があります。活動を続けていくにも事業性がないと難しいと思います。事業を展開していき、一定の収益を期待出来ないと持続性が見込めないものです。その意味で、過去に二宮町で申請してきた文化的な活動というのは熱心な人が居なければ難しいと思います。また、過去に出していない団体に呼び掛けると町民活動なのかと疑問に思う団体も出てきます。どうしたらよいのかは、なかなか良い案は

出ないですが現在の3団体が一通り終了して次の団体が出てくるかは不安があります。スタートの段階である程度ステップアップに繋げていくような事が出来るといいです。

(委員) サポートセンターが町民活動の場となっています。そのような活動の広場のところから情報をキャッチできるような取り組みが必要ですね。他の市民活動センターを見てみると、募集に関してや取り組みたい事を相談出来る場があります。特に人口の規模も違いますが、藤沢市のサポートセンターなどは、積極的にそのような取り組みを行っています。使いやすい、人の出入りがしやすい1つの理由については、藤沢市では、藤沢警察に〇〇団体という窓口があります。二宮でいうと、会長の家がそういう場所ではありますが、その団体がそこに集まって会議するというようなシステムになっており、情報を取得する1つのメディアですね。

(委員長) 様々な形で広報活動がされて、補助金制度等があることを上手く知らせられるような仕組みが必要である。また、誰かキーパーソンでも捉まえて組織作りを行い、応募してもらえるようにすることが必要になってくるのではないかという気がします。既存の団体でも新たな展開があるようなら応募しても良いというような考えが可能であればそれも一つです。始めは環境関係が多かったように感じますが、最近は、いろいろな活動の団体が申請してきていましたが、申請団体数も、ある一定の団体数が応募出来るような形にもっていかないといけないと思います。持続性という点でも熱心な団体もあるので考えていかなければならない制度です。また、行政自体がこれを重要視しているかどうかによっても取り組みが変わってきます。仮に行政の使命が終わったと考えればそうなるし、きちんと支援体制を続けていくということであればそれなりに動くというような気がします。補助制度を行っている、どこの自治体でも年月が経つと、物珍しさも無くなり、申請団体数が減ってくるのが現実です。対策を考えなければいけないのは事実なので、委員の皆さんの改善点でも募集に着目した意見が多いというのが、そのことの表れだと思います。何か良いアイデアがあれば、どんどん出して頂ければと思います。

(委員) なかなかこれだというのはありませんが。町と協働できる活動というような抽象的なものでなく、ある程度の方向性、例えば環境部門について対象を絞ることなども必要ではないか。私は昨日、ある活動に参加したのですが、さらにその活動が活発になるようなヒントを与え、それに興味を持った方がまた集まり活動を広げていくなかで、意見を出し合う。こんなことも1つの方法じゃないかと思います。もっと具体的なよりどこを提起し、それに呼応していくことも1つの方向性かなと思います。

(委員長) ある一定の具体的なものを示していくのは必要だと思います。ある席で町長がお話ししていたのですが、東北の町で昔の田舎料理を使って町おこしをやっている。二宮町でも、イベントの際に同じような事を行っていたかと思いますが、そのようなことも1つの事業として成り立つと思います。ハワイアンにしても健康のためにもいいだろうし、『やりませんか』と意向をむければ乗ってくると団体もあると思います。文化活動しかり、長寿の里二宮だから健康に関する活動や生活環境もあり、町民のいろいろなニーズだとか、意識だとかにこちらから問いかける事も必要かもしれません。そうすることによって、新たな申請団体が出てくるかもしれません。

(委員) 委員長の話しにもありますが、町民活動推進条例の第13条行政サービスへの参入機会の提供に該当すると思いますが、例えば神奈川県や他市などでも補助金の一つの制度として協働提案型事業を募集しているところもあります。

(委員長) 1つの宿題としてみなさんに考えていただき、活かせるものがあれば具体的な形にしていきたいと思います。『こういう事をしてみませんか』という切り口も含め検討したいと思います。

(委員) 制度自体知らない方も、まだまだ多いと思いますので、掲示板などでも周知したらいいと思います。町に登録している団体があるならば、周知するのもいいと思います。また、新たに委員をやるに当たって資料を読んだのですが、書類の作成が難しいように感じますが、もっと気軽に一般受けするような形であれば応募しやすいのかなと思います。

(委員長) 書類作成については必要な部分については書いてもらわないといけない部分があります。支出だとか収入だとかというのは、きちんと指導して、書き方など不明な団体については丁寧に説明し指導する事が必要だと思います。書き難いことをどのように解消するのか、書いてみたら意外と簡単ということもあると思います。分からない事があれば事務局に聞いてもらうなどしてほしいと思います。

(委員) 事務局のほうで、サポートセンターにおいて補助金交付についての説明会や相談会をやっていましたよね。

(事務局) 去年、団体现場確認を行いましたので、その様子などもサポートセンターで紹介しながら説明会を予定していましたが、残念ながらサポートセンターでの対応はありませんでした。役場の窓口においては数団体の相談はありました。先程から広報ということがありますが、他市等の状況を把握したところ、茅ヶ崎市で団体数が増えたという話がありましたので、確認したところ茅ヶ崎市はラジオのFM茅ヶ崎で紹介したり、茅ヶ崎駅にチラシを置いたとのことでしたので、二宮町でも駅にポスターを貼らせてもらったり、チラシを置きました。しかし、結果としては申請団体数の増加には繋がりませんでした。過去においては、積極的な団体が集まってくれましたが、今後は委員の方からもあったようにターゲットを絞ったり、様々な団体にこちらから積極的に働きかけをすることも必要だと感じています。

(委員長) 様々な事を考えて、出来る事を具体化していきたいと思います。

(2) 平成22年度補助金交付団体活動現場確認について(資料2)

◆資料2の補助金交付団体活動現場確認委員希望一覧について事務局より説明

(事務局) 昨年度より補助金交付団体の活動現場の確認を行っています。団体から活動予定日が示されていますので、各委員の希望で決めさせていただければと思います。

(委員長) 一団体に2、3人は行けるようなかたちで事務局へ連絡したいと思います。

(3) 二宮町民活動センターサポートセンターの運営について(資料3)

◆資料3のサポートセンター利用実績について事務局より説明

(事務局) 資料3に基づいて説明致します。開設以来5年を迎える中でより良い施設、また使いやすい施設を目指す中で各委員の意見もいただきながら運営してきました。平成17年の開設以来、徐々に利用者、利用団体が増えてきています。サポートセンターの利用についての団体登録は現在63団体になります。開設時間については、火、木、土曜日を夜9時まで利用できるようなかたちで行っています。また、印刷機については3月、4月の総会の時期には順番待ちも出る状況です。その他の項目については、サロンでの交流、印刷をした後の裁断機利用やチラシの配架などになります。また相談については、件数は少ないですが、各種ボランティア活動を行っている団体の紹介が主なものです。団体紹介については、ホームページやサポートセンターにファイリングをして行っています。また、高校生や大学生なども人数は少ないですが利用してもらっています。二宮のサポートセンターについては職員が常駐していないので、サポートセンターのスタッフと連携をして利用者の利便性の向上を図ってきたいと考えています。本日は、サポートセンターの状況ということで報告させていただきました。

(委員) パソコンの調子が悪いみたいですが。

(事務局) 予算の関係や近くにITふれあい館もあるため、新たなパソコンの整備は難しく中古品を設置しているため、故障の頻度も高いですが、インターネットについては使える状況になっています。

(委員長) 何か他にありますか。

(委員) これを今日、出されたのは、今後のサポートセンターの方向性を考えていこうというような意図があつてのことか、このまま報告を確認すればよいのか。

(事務局) 利用状況としては伸びていますが、会議のための部屋の利用や印刷機の利用といった部分であり、スタッフについても施設の管理運営が主な業務であり、利用団体の相談に乗ったり横の連携を図れるようなサポート体制の面についても担うような施設になればと思っていますので、委員からそのような点について意見をいただきより良い施設になればと願い今回の議題にしました。

(委員) 予算のかかっている事なので検討するにあたっては、有効活用を考えた時にどれくらいの税金を使ってそれに値する費用対効果なのか、また、町民一人あたりの費用を換算するようなことも必要ではないか。そういう事も含めて検討しないと、サポートセンターのあり方とか今後

に向けての進み方の検討というのが難しいのではないかという気がします。今、あちらこちらで公的な箱物をどう活用したらいいか、という事で検討を重ねている所が多いのですがこういう報告を頂いたことを機会に動いたほうがいいのかという気がしましたので、よろしく願いします。

(委員長) 他にございませんか。

(4) ホームページの掲載記事について (参考資料)

(事務局) 各団体への委員の意見をホームページに掲載しましたという事の報告です。

○議題1について遅れて来られた委員の意見をききました。

(委員長) 応募団体が少なくなっているのかという状況を打破するために何かいい意見がありますか。

(委員) この補助金制度を何年か考えていて、これの目指す方向を町民の方にまだわかってもらえていないように感じました。要は「お金を出すから使ってよ」という切り口で最初入っていったような気がします。そうすると、足りない所が手を挙げてくるわけです。そうではなくて、課題に対して新しく解決をする団体にお金を出しますと、心意気を受け取りますという事にならなければいけないのかなと思ったのです。でも、それをどう具体的に皆さんに期待するかというと、新しい公共のイメージなのですが町でやってもらえる事と自分達で出来る事のすり込みが必要であり、町民の方が自分達で出来る事は自分達でするんだという最初の意識付けをもっとして、何かをやろうとしたらお金がないという状態にしないと、応募はしてこないのかなと思います。現在、行っている活動に補助金を出すだと「やっぱり面倒だからいいよ、それでなくても書類も面倒だし」になってしまいます。そうではなく課題を探すセミナーのようなものにしたらいいいと思います。実はこの間、江の島の女性センターで、子供のいじめやDVのようなメンタルな面をサポートしている団体さんに申請書の書き方も含めたセミナーをやりました。3団体には30万ずつ出しますというセミナーで、2日間かけて申請書まで書き、やり方まで全部やりトップ3に30万を出すという新しい助成金の出し方でした。まだ自分のものにしてない団体さんにとって、やりたい事はあってもかたちにするのは難しいのであればそういうセミナーのようなもので初期コースのあまりお金の出ないほうのコースは丸1日コースくらいで、やりたい事のある人はそこからワークショップをしながら、申請書を作り上げてそれに10万円だとか5万円というかたちで動いてもいいと思います。電車に乗せてあげるようなイメージでレールを引くだけではなくて、電車もつけてその電車に乗って行くようなイメージの事を二宮で1回やってみたらおもしろいかと思いました。予算がついている間にやらないと、どんどん閉鎖に近くなってしまうので、そのところを大変でも作ってみるのもいいかなと思います。意識改革をすることが町づくりに繋がるし、特に二宮の場合は、町の考えている事に沿った事業にしか出せないことになっているので、そのくらいやってもいいかなと

思います。他市町の補助金制度は町や市の状況に添わなくても補助金を出しているところもあります。例えば世田谷区の場合は高架線を賛成、反対というところでも、区としては賛成なのだけれど、反対する団体にも助成金を出したりしています。二宮の場合は条例をみると町の考えに沿ったものに支援するので、対応によってはいつのまにか申請書を書いて活動もやってみると団体にとっては考え方なども違ってくるのではないかと思います。

(委員長) 行政側が仕掛けをつくるということだと思いますが、物事を起こすというのはお金も掛かることですよね。確かに補助金を使って関心のある団体を集めて、補助金申請書も書けるようにするという案だけれども、それに対して行政は資金も出さなければいけない。物事はタダでは出来ないのです、会場や職員の手配をしなくてははいけないし、あるいは知識のあるような方に手伝ってもらい謝礼も払わなければならない。あまりにもコストがかかると厳しい面もあります。

(委員) 因みに、綾瀬市もサポートセンターの事で行政の方が悩んでいて、国か県かの地域活性化のための補助金 30 万円で講座を開催したそうです。そのように、自治体が何かの補助金を使う方法をやらない限りお金はどこからも出てこないのかなという気がします。サポートセンターの予算の中で削減できるものは削減し、そのお金で何か新たな開拓の事業をしたり、他と合わせながらやるべきだと思います。二宮の場合、防犯とか防災の活動が活発なので、そのような他のセクションとの合わせ技でやるなどしたらいいと思います。良い講師を呼んで日本中の新しい公共の話しとかを聞くのは雲の上の話しではなく、足元の話しだという実感を持ってほしいと思います。人間は何もなくなると知恵が出てくるので、みんなで考えるのが正解かもしれないなと思います。

(委員) 二宮は人口 3 万の町で他の市は 10 倍、20 倍で、その中で活動している人達の比率割合というのがある程度満たしているとすれば、二宮で活動している絶対数が少ない。いろいろ知恵を出すにしても釣りはしたいけど魚がないという事になって、川まで広げようということになってしまいます。言い方をかえると、学生で志を持っている人がいればそのあたりから引っ張り上げないと無理なのかなと思います。二宮は絶対数が少ないのでだいたい大人は顔が見えちゃっている。人口 3 万の町の中で新しい事をやっても絶対数が少ないとなれば、二宮在住だけでなく、大学生、高校生、中学生くらいまで下げてでも彼らがやっているクラブ活動や放課後の課外活動に近いものの中に後押しできるものがあるかも知れないという気がします。海だけでなく川まで、海水から真水までという見方があるのではないかと思います。

(委員) 二宮というのは町民活動が対象になっていますが、自治会活動という地縁の活動も入っているのですか。

(事務局) 地縁のほうについては事実上、地域活動ということで対象外です。

(委員) 本来は真水の中に地縁も多少考える所もあるかなと思います。統計でいくと、ボランティア

活動をしている人は3割くらいといわれています。3万人の3割でもう、「顔が見えた」というのは自治会活動も含みますから納得しました。

(事務局) 基本的に、防災防犯というのは自治会活動の一環で行っています。例えば河川の草刈りも自治会活動の延長で行っているところもあります。

(委員) 子供の部活動みたいのを受け入れるというかたちにするのはちょっと違うかなとは思いますが。

(委員長) なかなか難しい意見ですが、まだ今日は話しあっただけで手探り状態ですので今後継続して検討していきましょう。またこういう事を思いついたとか、こういう事例がある、こうやったらいいのではないかというご意見がありましたら、会議の中で検討し、来年の活動に繋げていきたいと思います。手を組んでただ見ているだけではいけないので具体化できるものは具体化して、少しでもやれる事はやったほうが可能性は出てきます。応募団体が少なくなってくればそれは継続すべき事業であるか、という事を問われるわけであり、そういう事にならないようにしていきたいと思います。

(事務局) 今後の日程については、あと3回あり、3回のうち1回は現場確認になります。10月から11月ごろに団体の現場確認を行い、12月上旬と2月に会議を行いたいと考えています。

(委員長) 今日は、暑い中ご苦労様でした。

4. 閉 会 (山内委員長より)

◆20:15に閉会した。

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____